



## 日本創造学会第16期(2026年1月～2028年12月)役員紹介

### 会長 豊田貞光 全体統括補佐



トヨサダ研究所所長

本年度より会長職を拝命いたしました豊田貞光と申します。よろしくお願ひいたします。さて、ご挨拶として当方が3年間務めました理事長時代の振り返りと今後の貢献を述べさせていただきたいと思ひます。まず、1つ挙げさせていただきたいのは「変革の実践」です。具体的には①ホームページを刷新しました。②論文投稿システムの実装と運営です。③研究大会の運営方法導入（インタラクティブセッション：これを久留米方式と呼びました）です。④フィールドサーベイ型クリエイティブサロンの進化です。⑤柔軟な理事会運営です。⑥AI型KJ法への挑戦です。思ひ起こせば慌ただしくも安土桃山時代から平成25年くらいの環境適応はできたと思ひております。今年度からは、変革の中心メンバーだった三浦理事長と古川副理事長を支えつつ、ベテラン理事、新任理事、顧問と切磋琢磨し、多様化する時代に適応していきたくと思ひます。また、他団体連携や留学生支援活動をしていきたくと思ひます。

### 理事長 三浦元喜 全体統括



千葉工業大学 教授

このたび理事長を拝命いたしました三浦元喜と申します。コロナ禍を経て、対面での交流の機会がほぼ回復していることを大変ありがたく感じております。一方で、オンライン活動による時間的・地理的制約を超える利便性や参加機会の拡張という利点も大切に、対面とオンラインの双方の強みを活かした学会運営を進めてまいります。

この歴史ある学会の立ち上げと発展に尽力されてきた歴代会長・理事長の志を継承しつつ、小規模ならではの機動力と迅速な意思決定を活かし、さらなる活性化に取り組みます。とりわけ論文誌については、投稿から査読、出版に至るプロセスのシステム化を通じ、迅速かつ公正な査読体制を確立することで、その学術的価値を一層高めてまいります。また研究大会についてもウェブ投稿管理システムを導入し、利便性向上や事務局の負担軽減に取り組みます。加えて他団体との連携強化や国際化の推進にも継続的に取り組み、本学会の知的発信力を高めていく所存です。会員の皆様の積極的なご参画をお願い申し上げます。

### 副理事長 古川洋章 編集/IT化推進担当



北九州市立大学  
准教授

このたび副理事長を拝命いたしました、北九州市立大学の古川洋章と申します。昨年12月まで理事長顧問として、学会のIT化推進（Webページの更新、サーバのリプレイス等）を通じて学会運営に携わらせていただきました。さて、近年の創造性研究を取り巻く状況は、生成AIという破壊的イノベーションを伴う技術の登場により、大きな転換点を迎えていると感じております。この点において、日本創造学会の強みは、これまでに培われた創造性に関する深い知見と、生成AI技術に対する高い見識を併せ持つことにあると考えます。先進的な研究を醸成する場として、当該領域をけん引する団体となり得ると確信しております。会員の皆様の積極的なご参画を心よりお願い申し上げます。最後になりますが、微力ながら理事長である三浦先生を支え、本会のさらなる発展に尽力してまいります。今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。

## 理事 白坂成功 広報担当



慶應義塾大学大学院  
教授

この度、引き続き日本創造学会の理事を拝命いたしました白坂成功です。慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科にて、新たな価値の社会実装に向けた方法論の研究・教育・実践に取り組んでまいりました。私は、創造性を一部の特別な才能にとどめるのではなく、誰もが発揮し得る力として社会に広げていく「創造性の民主化」が重要であると考えております。本学会の活動を通じて、多様な分野・立場の方々との対話と共創を促進し、創造性が自然に根づく社会の実現に貢献してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 理事 藤原由美 広報(研究大会)担当



産業能率大学 教授

この度、理事を拝命しました産業能率大学の藤原由美と申します。慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属SDM研究所の研究員でもあり、主にアクティブ・ラーニングによる創造的な教育法の開発・研究を行っております。前期の任命理事に引き続き、今期は理事を務めることとなりましたので、他の役員の方々とご一緒に本学会の発展のため貢献できるよう努めさせていただく所存です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

## 理事 松前あかね 国際担当



九州大学大学院 教授

この度、理事を拝命しました九州大学芸術工学研究院の松前です。個を起点としたソーシャルイノベーション領域での25年間の実務経験を糧に、実践と理論の往還による社会的創造性 (Social Creativity) 研究に取り組んでいます。留学生の参画推進や国際的な創造性研究コミュニティとの橋渡しにより日本創造学会の国際化に貢献して参りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 理事 安松健 クリエイティブサロン担当



(株)エボルブ/大阪教育大学 特任准教授

生成AI活用は文字・テキストだけではないことはもはや言うまでもなく、画像・音声・動画などを「統合的に活用する時代」となりました。しかし、マルチモーダルとはいわれますが、AIの異種情報の統合的な処理能力は人間には遠く及ばず、各種AIを統合・総合するオーケストレーション能力の重要性が増しています。既に企業や教育の現場では、音声・画像・動画の協奏的に駆使した従来にないコミュニケーションが創出されておりますので、その研究・実践に取り組んでまいります。

## 理事 五百木誠 他団体連携担当



慶應義塾大学大学院  
准教授

私は慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科で、前例に因わずイノベティブに考えるためのやり方を学んでもらう「デザインプロジェクト」という講義を担当しています。20~60代までの幅広い年齢層、多様な専門分野の学生が取り組んでいます。自分の仕事は創造性とは縁遠いという認識の人が依然多い中、より多くの社会人に本学会の成果を活用してもらえよう、橋渡しの役目を果たしたいと思います。

## 理事 野中朋美 広報(研究大会)担当



早稲田大学 教授

早稲田大学創造理工学部の野中朋美です。システム工学とサービス工学を基盤に、人間中心の視点から新たな価値を創出する方法論の研究と実践に取り組んでおります。特に、宇宙QOL研究開発や人間中心ECLSS(環境制御生命維持システム)の設計や、食の価値創造に関するシステムデザインを通じて、新たな価値を生み出す創造の仕組みの解明と実践に取り組んでいます。本学会の活動を通じて、分野を越えた対話と共創を促進し、創造性研究のさらなる発展に貢献できるよう取り組んでまいります。

## 理事 尾澤知典 クリエイティブサロン担当

慶應義塾大学大学院  
SDM研究所特任研究員

本年度より、理事を拝命いたしました慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科の尾澤知典と申します。会員の皆様からのご支援、ありがとうございました。学会の発展に尽力していきます。創造性は「生まれながらにもっている素質」として扱われがちですが、「教育で向上させられる」というスタンスに立ち、論理的思考を手がかりとした実践研究や生成AIとの関わりを探索しています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

## 任命理事 森田純恵 論文編集担当



秋田県立大学 教授

博士号(経営情報学)取得を機に、日本創造学会の任命理事(論文担当)を拝命しました。システムデザインと学際的研究を基盤に、知識創造理論・デザイン思考・オランダ研究で培った視点から、実社会の価値創造につながる知の統合を推進したいと考えています。SDM系の皆様との連携や、恩師から受け継いだ学術的系譜も大切にしつつ、本学会の発展に貢献してまいります。会員の皆様との対話と共創を通じ、新たな知の創発を目指します。

## 任命理事 赤木真由 コンテンツ編集担当



周南公立大学 講師

この度、任命理事を拝命いたしました赤木真由と申します。これまで企業における人材育成に携わる中で創造性の重要性を実感し、チームの創造性発揮をテーマに教育・研究に取り組んでまいりました。現在は大学教員として、デザイン思考やシステム思考を活用したPBL型授業を担当するとともに、自治体や企業との共同研究にも取り組んでおります。本学会のさらなる発展に貢献できますよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

## 任命理事 五郎丸秀樹 論文編集担当



千葉工業大学 教授

この度、日本創造学会の理事を拝命いたしました千葉工業大学未来変革科学部の五郎丸秀樹と申します。研究では発想支援やリスクマネジメント、情報セキュリティを通じた創造的システムの構築とその社会実装に取り組んでおります。本学会の多様な活動を通じて、創造性に基づく対話と共創を促進し、学会の発展に微力ながら貢献してまいります。何卒よろしくお願いいたします。

## 監事/フェロー 國藤進



北陸先端科学技術大学院大学名誉教授

日本創造学会の監事は二度目であるが、田村監事とともに学会としての収入と支出を肅々と監査するのが役割である。

## 監事 田村新吾

(株)ワンダーワークス  
代表取締役

1961年ソニーの創業者の井深大は、国際基督教大学の講演でAI時代の到来を予測し、人類に対する警鐘と共に「人類に残された唯一の特権は『創造』である」と断じた。その人類、特に日本人の特性は縄文以来現在まで幾多の震災を経て身につけた団結力と有り合わせ道具を生かした工夫が衣食住に生かされている。その工夫には四海、四季に育まれた美観がある。日本創造学会として、倫理的美観にAIを生かす創造的研究を支援する。

## 理事長顧問 富沢日出夫



産業能率大学 教授

理事長顧問を拝命いたしました産業能率大学の富沢日出夫です。元々は生物学（生態学、生物統計学）を専門としており、生息環境の違いによる植物の動態（増減のパターン）を長く調べてきました。現在では、生き物に限らず、あらゆるデータから「特定のパターン」を見出すことに強い興味関心を持つデータサイエンティストを自称しています。学会業務は不慣れではありますが、精一杯務めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 理事長顧問 西野涼子 論文編集担当

産業技術総合研究所  
主任研究員

創造性研究のような学際性の高い領域においては、“議論の場”を育てることが重要であると考えています。学会の知的活動は、論文誌の発行を含め、その役割を担いながら、共感や建設的な反証を積み重ね、次世代の学びと研究の発展に寄与するものです。日本創造学会理事長顧問として、多様な視点が交差し新たな知が創発される環境づくりに努めてまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。

## フェロー/評議員長 永井由佳里

北陸先端科学技術大学院大学  
教授・副学長

## 副評議員長 当麻哲哉



慶應義塾大学大学院 教授

## 評議員

加藤昌治（UNIVERSITY of CREATIVITY（株式会社博報堂））  
エド・はるみ（吉本興業株）  
川路崇博（久留米大学）  
西村拓一（北陸先端科学技術大学院大学）  
由井蘭隆也（北陸先端科学技術大学院大学）

## フェロー/評議員 紺野登（多摩大学大学院 教授）

## フェロー/評議員 高橋誠（創造開発研究所 代表）

## フェロー 前野隆司（武蔵野大学 教授）

参加費  
無料

日本学術会議登録団体 日本創造学会

## 第92回クリエイティブサロン

2026. **3.28** Sat 13:30-15:30

### 指標のジレンマと ウェルビーイング

～「測れない価値」を殺さないための生存戦略～

### 創造性と生成AIの接点

～「発想を支援する思考様式」と  
「生成AI活用の思考様式」のつながり～



**講師: 西浦和樹氏**  
宮城学院女子大学 教育学部 教授  
ストックホルム商科大学 ウェルビーイング・ウェルフェア・ハビネスセンター (CWWH) 客員教授 博士 (心理学)



**講師: 尾澤知典氏**  
慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 特任研究員  
横浜市立小学校教諭 日本創造学会理事 博士 (知識科学)

#### 【指標のジレンマとウェルビーイング～測れない価値を殺さないための生存戦略～】

私たちは今、GDP や偏差値、売上目標など「見える指標」に行動を誘導される世界を生きています。しかし、短期的な数字を最適化しようとするあまり、個人の心の平穏や、組織の創造性を育む土壌（コモンズ）といった「測れない価値」が枯れてしまっていないでしょうか。

本講演では、脳科学（マインドフルネスとDMN）、国家戦略（ブータンのGNH）、そして組織経営（社会的ジレンマ）という3つのレイヤーから、指標がもたらす現代の罠を解き明かします。「利益なき慈善」でも「理念なき利益」でもない、持続可能なウェルビーイングを実現するために、私たちが持つべき視点とは何か。明日から実践できる「TACK フレームワーク」と共に、見えない価値を守り育てるための生存戦略をお話します。

#### 【創造性と生成AIの接点～「発想を支援する思考様式」と「生成AI活用の思考様式」のつながり～】

汎用型生成AI が一般化した2022年以降、その進化は著しく、文章・画像・動画・音楽など多様な生成を通して人間の思考を補完する存在となった。これに伴い、生成AIの活用方法やプロンプトの書き方を解説する実践的な手引書も数多く出版され、学習者の活用力向上に一定の成果を上げている。一方で、それらの多くは使用場面ごとの具体的な指示文に焦点化しており、新たな課題や未知の状況に応用しにくいという限界も抱えている。そこで、本講演では、創造的思考の研究で用いられてきた「抽象と具体（演繹・帰納・アブダクション）」「目的と手段」「類推」といった論理科学的な思考様式に着目し、これらが生成AIへのプロンプト入力においてどのように活用しうるかを整理する。生成AI活用を単なる操作技能ではなく、思考様式の問題として捉え直し、今後ユーザーが育成すべき思考の方向性を提示する。

#### 【参加申込方法1】

日本創造学会事務局 (jcs-info@japancreativity.jp) にメールでお申し込み下さい  
[ 氏名 / 所属 / 会員 or 非会員 / メールアドレス ]

#### 【参加申込方法2】

イベントポータルサイトPeatix から申込みができます。

<https://92th-cresalo.peatix.com>

## 第48回日本創造学会研究大会は秋田市で開催されます



第48回研究大会  
実行委員長 森田純恵

第48回研究大会の実行委員長を拝命した秋田県立大学の森田純恵と申します。日本創造学会研究大会は、首都圏開催と地方開催を交互に行う慣例があり、本年度は秋田県秋田市で9月または10月に開催する予定です。現在、会場・日程とプログラム内容を鋭意企画調整しております。詳細が決まり次第、会員の皆様にお知らせいたします。

秋田は豊かな自然と文化に生まれ、きりたんぽや比内地鶏、日本酒など四季の恵みを味わえる土地です。澄んだ空気と穏やかな風土の中で、創造的な交流が深まる大会となるよう準備を進めております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

# KICSS2025開催報告

## The 20 th International Conference on Knowledge, Information and Creativity Support Systems (KICSS)

第20回国際会議KICSS2025が、2025年12月3日～5日に新潟県長岡市のアオーレ長岡で開催された。General Chairは伊藤孝行教授（京都大学）、Local Arrangement Chairは羽山徹彩教授（長岡技術科学大学）が務められた。参加者数は49名、投稿件数40件、採択数37件（Long Paper 21件、Short Paper 11件、Poster 5件）、Long Paperの採択率は53%であった。本学会からは、國藤進、三浦元喜、由井蘭隆也、有賀三夏、古川洋章、川路崇博、羽山徹彩の各会員が参加された。

基調講演は2件行われた。まず、JAISTの由井蘭隆也教授が「オリジナルKJ法に関する個人的視点：創造的技法、創造的問題解決プロセス、21世紀の学習における可能性」について講演された。由井蘭教授は1993年以来、グループウェアとKJ法の融合に取り組んでおり、KJ法を創造的技法、問題解決プロセス、そして21世紀型能力育成の観点から論じ、フィールドワークを含むオリジナルKJ法の教育的可能性を提示された。2日目には、京都大学のSofia Sahab助教が「包摂的な公共討議と社会的結束のためのAI」について講演された。AI促進者を用いたオンライン討議プラットフォームの研究を紹介し、特にアフガニスタンにおける民族的分断を抱える文脈でのAI活用事例を通じて、AIが中立的な調停者として機能する可能性を示された。

受賞者も多数輩出された。Best Paper AwardはSofia Sahab助教らによるアフガニスタン女性を対象としたメンタルヘルス支援AIに関する研究が受賞した。Kunifuji Awardは川路崇博教授（久留米大学）が受賞した。同研究は、アイデアマラソンシステム（IMS）による15週間の創造性トレーニングの効果を検証し、発想の量的向上や改善思考力に効果が認められた一方、独創性や実践的応用力には課題が残ることを示した。また、Outstanding Paper Award、Honorable Mention、Best Student Paper Award、Best Poster Awardも授与された。

内容面では、AI技術と人間の創造性の融合が際立ったテーマであった。セッションは「創造性研究と人間-AI協働」「LLM基礎技術と評価」「LLMアプリケーションとAI対話」など9つのテーマで構成され、大規模言語モデルの応用研究、教育システム、メンタルヘルスとウェルビーイング、協調学習など多様な分野での研究発表が行われた。特に、生成AIをグループワークに組み込む際の効果検証や、LLMのプロンプトベース長さ制御など、AIと人間の知の共生に関する実践的研究が多く見られた。由井蘭教授の基調講演で示されたKJ法における人間の思考と経験の重要性、そしてSahab助教のAIによる包摂的対話の実現という両面から、人間中心のAI活用の方向性が示された大会であった。

会期中は、長岡の地酒や郷土料理を楽しむレセプションとバンケットが開催され、最終日には朝日山酒造と花火館を訪れるエクスカージョンが行われ、学術交流とともに新潟の文化も堪能する機会となった。

次回、第21回KICSS2026は、タイでの開催が予定されている。会員の皆様には、ぜひご参加・ご発表いただきたい。



# 体験が創造性の源泉

日本創造学会会長 豊田貞光

日本創造学会に約24年在籍し、本職はコンサルタントとして理事10年、副理事長3年、理事長3年、会長1年目。あまたな時間を投入しましたが、すべてノーギャラだったというアンビリバボー！研究者としては、ジャーナル2本（うち1本論文賞）、研究大会論文19本（うち1本発表論文賞）というチープな成績。理事長時代には変革活動を少々（本ページ自己紹介参照）。そんな私が2025年4月組織を完全リタイアし、フリーランスとなり、冒険家へ回帰し、国内外を探訪した経験を独善的に綴りたいと思います。

私は、組織人としてそして末席に座る研究者として40数年生業を立ててきたので組織離脱により一人となる不安感がありました。しかし、その解放感が冒険家魂（自称）を呼び覚まし、新たな意味でのイノベーションライフを楽しむ切り替えができました。フリーランスの最大の魅力は何と言っても「まとまった時間が取れること」だと思い、金銭面も考慮し人生後半戦略を練りました。

まず、真っ先に取り組んだのが「まだ体に自由度あるうち未踏の世界を自分の足で行き、目で見て、現地食を頬張り、肌感覚を満喫したい」を計画し、実行しました。探訪先は、2024年3月エジプト（ギザ、アブシンバル、ルクソール、カイロ）、アテネ、イスタンブールを2週間、2025年9月、ペルー（リマ、マチュピチュ、クスコ、ブラジル（リオデジャネイロ、イグアスの滝）を2週間、体験しました。また、国内は、「おてつたび」を利用し、2025年8月長崎県壱岐島（イルカパークのカフェバイト3週間）、10月鹿児島県霧島（漬物工場作業員2週間）、を体験しました。これらの体験は私に何をもたらしたのかというと、「体験が創造性の源泉」に尽きます。

具体的には「クフ王のピラミッドはでかい！マチュピチュは遠い、イグアスの滝は地球サイズ、アイスコーヒーの氷は4つ、ラッキョウの外皮は薄い」この言葉の裏側に体験によって得た暗黙知が満載していること。つまり、体験し、脳内格納庫に情報を満タンにしないと本質は見えてこないことを改めて知ったことです。年を重ね、何でも分かったつもでも、実は本当には理解していないことを改め知りました。まさに、体験に勝るものなし、暗黙知が創造性の源泉です。

今私たちは、AIの到来によりビジネスでも研究活動でも世界規模のパラダイムシフトの渦中にいると思います。混沌中でも当学会の皆さまは、AIには決してできない「体験が創造性の源泉」を実践していただき、曖昧さを切り拓き「暗黙知こそ研究者の本質」を追求し続けていただきたいと思います。



## 入会者紹介

氏名	会員種	所属	住所	専門分野
金岡 美帆	学生会員	北陸先端科学技術大学院大学	東京都	知識科学

## 書籍紹介

### 「言葉でアイデアをつくる。」

仁藤安久著

ダイヤモンド社 1,500円(+税)



- ★アイデアへの苦手意識がなくなる！
- ★受賞&実績で注目のコピーライター／クリエイティブディレクター、初の著書！
- ★電通サマーインターンシップ、東京理科大学オープンカレッジ等1000人が感動した人気講座！
- ★個人&チームの両面から、アイデア力を高める方法を初公開！
- ★アイデア発想&分析に使える！「アイデア分解構築シート」付
- ★日本創造学会著作賞（啓蒙部門）受賞

◎アイデアや創造力に対して苦手意識を持つ人は多い。しかし、著者は「アイデアや創造力と言われるものの多くは、習得可能な『技術』だ」と断言する。  
 ◎アイデアにブレーキをかける思い込みを手放し、アイデア力を高める基礎&応用の技術をわかりやすく解説。  
 ◎頭の中のモヤモヤを形にして、人のココロを動かすアイデアを生みだせるのか？ 個人&チームの両面から、アイデア力を高める方法を初公開する。

## 会費納入のお願い .....

2026年度の会費納入期限は2月末日となっております。学術団体である当学会は、会員の皆様の会費により運営されております。より充実した学会活動を展開するために、納入のご協力をお願い申し上げます。

- ※所属や住所の変更など登録情報に変更がある方
  - ※所属機関の会計処理の都合で2月末までの納入が難しい方
- 上記の方は学会事務局までご連絡をお願い致します。

### 【郵便振替（郵便局窓口）の場合】

00160-6-126409 （加入者名：日本創造学会）

### 【銀行振込・ネットバンキングでの振込の場合】

ゆうちょ銀行 店名019店（ゼロイチキューウ店）  
 当座 0126409 ニホンソウゾウガッカイ



## 事務局メッセージ

ミラノ五輪で逆転優勝を果たした「りくりゅう」ペア。前日の不振を、わずか一夜で再構築したその“自己調整力”と“レジリエンス”は、まさに人間の可能性の証左です。自身の内にある回復力を信じ、次の一歩を踏み出す勇気を携えて歩んでゆく――その姿は私たちの心に刻まれ、多くの人々を励ましたのではないのでしょうか。

（事務局：比嘉）

日本創造学会 ニュースレター

2026年2月発行（No.1）

日本創造学会事務局

発行人：三浦元喜

編集担当：比嘉由佳里

〒272-0031 千葉県市川市平田

1-10-2

Tel 080-3465-6152

e-mail: [jcs-info@japancreativity.jp](mailto:jcs-info@japancreativity.jp)

<http://www.japancreativity.jp/>